

# シナリオ 1

## 主婦ゆかりの自宅 地震発生直後



### 【場面設定】

その日は、朝からチラチラと雪が舞っており、周囲の山々も、もやにけむっているように見えた。

結婚と同時に、思い切って姫路の北西部に家を建てて10年あまり…。住宅ローンは苦しいが、スーパーや駅が近く、生活が便利で自然も残っているこの地が、ゆかりは本当に気に入っていた。

ゆかりは、今日もほぼ寝たきりに近い義母のつた子につきっきりで昼食を食べさせた。

そして、自分も少し遅めの昼食をとったあと、ぼんやりと居間でテレビを見ているときだった。

突然、今までに経験したことのない激しい揺れを感じた。

地震だ！と思ってゆかりは咄嗟にテーブルの下に隠れたが、その直後、食器棚が「ガシャン」と音をたてて倒れ掛かってきた。

揺れている時間は、1～2分だったかもしれないが、まるで悪夢を見ているかのような、長い長い時間に思えた。

しゃがみこんでいる間にも、「ドスン」、「ガラガラ」といった音が断続的に聞こえてきた。阪神・淡路大震災のときにテレビで見た二階が落ちて潰れてしまった家屋の映像が頭に浮かび、この家もそうになってしまうのではないかとこの恐怖におびえた。

揺れがおさまったあと、あたりを見回すと割れた食器類やガラスの破片等が散乱しており、しばらくぼう然自失の状態であった。

はっと気がついて、隣室で寝ているつた子の様子を見にいったところ、タンスがつた子の腰から下あたりに倒れ、転げ落ちた「おかあさん、だいじょうぶ！？」、「う～ん…」つた子は、ただ、うめくだけで、返事もしない。

必死になってタンスをどかし、慌てて、119番に電話したがまったく反応しない。

どこかで電話線が切断されているようだ。夫の真一郎の携帯に電話したが、これもつながらない。

夫は、子供たちは、大丈夫なのだろうか。

家の中を動いているときに、足の裏にガラス片が刺さり、痛みと不安で、ゆかりは、ほとんど泣きそうになりながら、座り込んでしまった。



### 【議論のポイント】

- ・ ゆかりは、これからどのように行動するべきなのでしょう。
- ・ 自分が主人公になったつもりで、状況をイメージし、その行動の中で、起こりうることや気をつけることを考えてみましょう。

## シナリオ 1 続編

### 主婦ゆかりの自宅～避難所到達まで

#### 【行動シミュレーション】

ぼう然としていたゆかりだったが、つた子のうめき声が聞こえてきたとき、はっと我に返った。

こうしちゃいられない。

私がしっかりしなければ・・・。

まずは、自分の手当てだ。

家に常備している救急セットで、**ガラスで切った足を消毒し、包帯を巻いてから靴を履いた。**

とにかく人を探そう。「おかあさん、もう少しだけ辛抱しててね。」つた子に声をかけ、ゆかりは外に飛び出した。



家の中は、割れたガラスで、危険です、動きまわる時は、靴、スリッパを履きましょう。

周囲を見回したところ、どの家も新しいからだろうか、潰れてしまっている家屋はなかったが、くずれた塀や倒れた自転車、飛び散った植木鉢やプランターなどが目に飛び込んできた。

次に 10 メートルほど先の交差点のところで顔見知りの主婦が 2、3 人集まっているのが見えた。

駆け寄ったゆかりに「体はだいじょうぶ?」「うん、ちょっと足を切っちゃったけど、だいじょうぶ」「ほんとにびっくりしたわ。もう死ぬかと思った。」「でも、また余震がくるんじゃない。」

**「携帯も通じないのよ。」「子どもが心配だわ。」**

「学校のほうが建物もしっかりしてるし、だいじょうぶよ。」などと話しているうちに、また一人、二人と近所の主婦やおばあさんが集まってきた。でも近所で一番仲のよい隣家の京子の姿は見えない。やはり、この時間はパート先のスーパーだろう。無事に帰ってこれるだろうか・・・。

普段から、緊急時の連絡方法を家族で確認しておきましょう。

ゆかりが家で寝ているつた子のことを話したところ、他にも倒れたタンスが当たって、おじいさんが怪我をしたと言う者もいた。

「それじゃあ、とにかく男手がいるわね。」

「自主防災会があるって聞いたことあるけど、どこにいる

Ｌ字金具などで家具を固定しておくことが大切です。

のかしら。」

「私、以前にこの町の防災訓練に参加したことがあるんだけど、もし大きな地震がおきたら、一時避難場所っていうのかしら、一丁目の緑山公園に集まれって言われた記憶があるわ。」

「じゃあ、会長さんたちもそこにいるんじゃない。」

「とりあえず、行きましょう。」

そのときに、一時避難場所のことを思い出した主婦が言った。

「あっ、でも一度家へ帰って、ガスの元栓とか、電気のブレーカーを落としたほうがいいわ。」

たしか、訓練のときにそう聞いた気がする。阪神・淡路大震災のときも地震の後、大火事になったんじゃないかしら。」

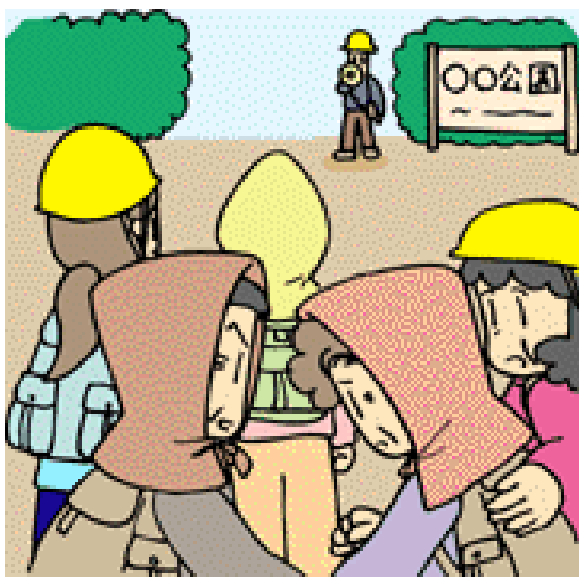
二次災害防止のため、必ず行ってください。

平時の訓練で学んだことが災害時には極めて重要となります。できるだけ地域の訓練には参加しましょう。



ゆかりは、すぐに家に戻って、ガスの元栓を閉じ、ブレーカーを落とした。

ガスや電気のことなど全く気が回らなかったもので、平時の訓練というのは本当に大事なんだなあと思った。



つた子に「お母さん、今から一時避難場所の公園へ行って、人を呼んでくるからもう少しだけ待っててね。」と声をかけた。

今度は、つた子も「うん、少し楽になったから、待ってるよ。」と返事ができるようになり、少し安心した。

緑山公園には、数十人の人が集まっていた。そのほとんどは、主婦か高齢者、そしてまだ学校へ通っていない幼児だ。

公園に着いたとたんに地面がぐらっぐらっと揺れた。「きゃあ〜！」周囲で悲鳴があがった。

皆、最初の地震で、揺れの恐怖が体に染み付いている。

そのときに初老の男がハンドマイクで「皆さん、落ち着いてください。」と呼びかけた。  
「私は、自主防災会会長の山田です。今の揺れは余震です。

これからも何度か、こういった余震があるかと思いますが、最初の地震よりも大きな揺れは、絶対にありませんから、慌てずに行動してください。」

「また、今、家に怪我人や自力で動けない人がいる方は、ここで申し出てください。

**自主防災会や消防団の皆で、手分けして、確認・救助作業にかかりたいと思います。**

一時避難場所は、住民の安否を確認する場であり、初期情報を得ることができる場でもあります。

また、ここに来られないで、まだ、自宅にいる一人暮らしの方とかもいると思いますので、隣保役員の方は、ご自分の受け持ち区域の居住者確認をお願いします。」

そういえば、山田の横に数人の役員さんらしい人が並んでいる。

ゆかりもすぐに、つた子のことを伝えに行った。

「わかりました。人手が整い次第、救出作業に入ります。」

ゆかりは、つた子に関しては、やっと安心できたが、そうすると、今度は、子どもたちのことがひどく心配になってきた。

学校へ行かなくちゃと、思ったときに、山田の声が聞こえてきた。



「それでは、皆さん、市の避難所担当とも連絡がつきましたので、これから一団となって、市の指定避難所となっている緑山小学校へ向かいます。」

夜間や休日などは、地震発生直後は、まだ指定避難所である小学校の体育館等は開錠されていないので、市との連絡・連携が大切です。

そうか、緑山小学校は避難所になっているんだ。言われてみれば当たり前のことだが、つた子で動転していたゆかりは、全く頭が回っていなかった。

でも、これで子どもたちに会える。無事でいるだろうか。

ゆかりたちは、道すがらの家々に声をかけながら、緑山小学校へ向かっていった。